

佛國の日食觀測隊消息

昨1929年五月9日の南洋の皆既日食を觀測のため、はるばるフランス國から天文學者たちが來たことは知られてゐたけれど、其の觀測地や、觀測狀況や、成績などについては余りよく知られてゐなかつた。近頃歐洲から受けた報告により、こゝに始めて此の一隊の様子が知れた次第である。

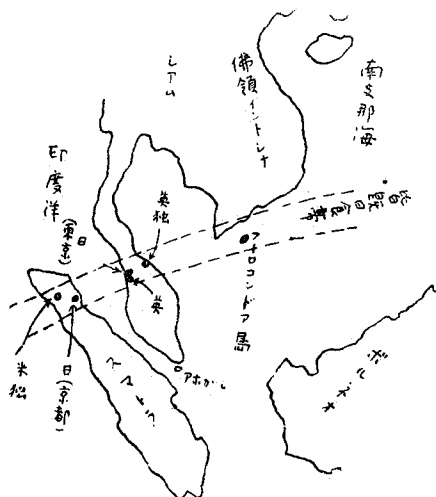
フランスから遠征した人々は、マルセイユ天文臺長ボスレ T. Bosler氏を隊長とし、其の助手ガリソン M. Gallisot氏、それからストラスブール大學天文臺のダンジョン A. Danjon、ルジエ Rougier ラルマン Lallemand 三氏、海軍大尉タロン Talon氏、無線技師ガル Galle氏等であつて、觀測地としては、フランス領インド支那のカモト岬から少しく東方に離れてゐるプーロ・コンドア Poulo Condoreといふ小島であつた。

プーロ・コンドアといふのは幾多の島の群であるが、其の中の最も大きいのでさへ、長さ14キロ、幅4キロといふ大きさに過ぎない。島の中にバニウや、ビエール・ブランシなどの小邑がある。

觀測隊は此の島内の平地に、器械のための小屋を建て、其の中に、口径24センチ以下いろいろの赤道儀望遠鏡などを据えた。

と其の附近

佛領プーロ・コンドア島内の日食觀測地点





ブルコンドア島の位置と、各観測隊の位置とを示す

ブーロ・コンドア島に滞在中の4週間ばかりのうち、いよいよ日食が迫つて來た頃は、天氣が一体に良なくて、皆大に困つた。五月5日から同7日までは、雨が小止みなしに降り續け、8日に至つて少しく雨の勢が衰へ、9日に至つて始めて雨は止み、空の雲も幾らか薄くなるといふ有様であつた。

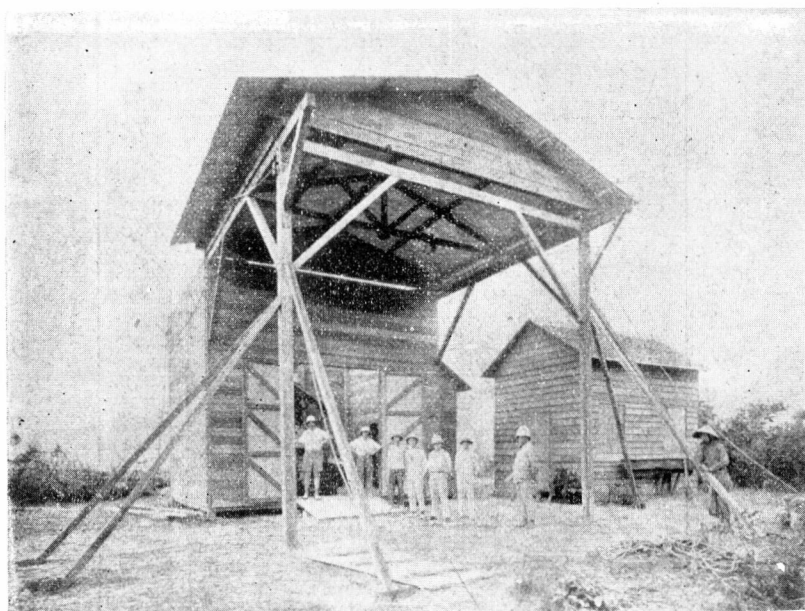
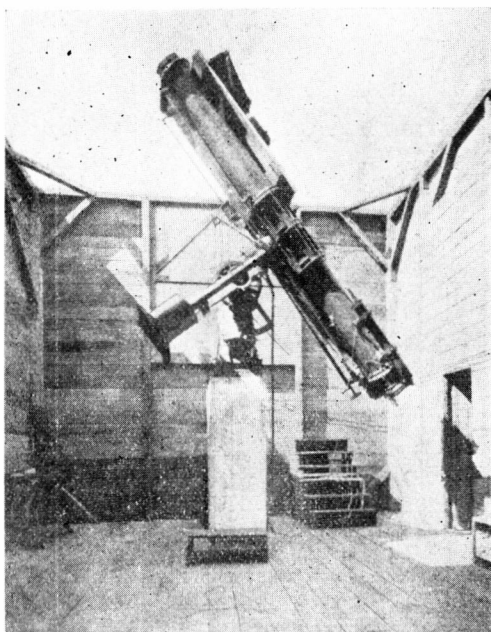
日食の日の日出頃は晴れてゐたが、時刻が移るにつれ、淡雲が往来し、遂に観測は一部分の成功に終つた。

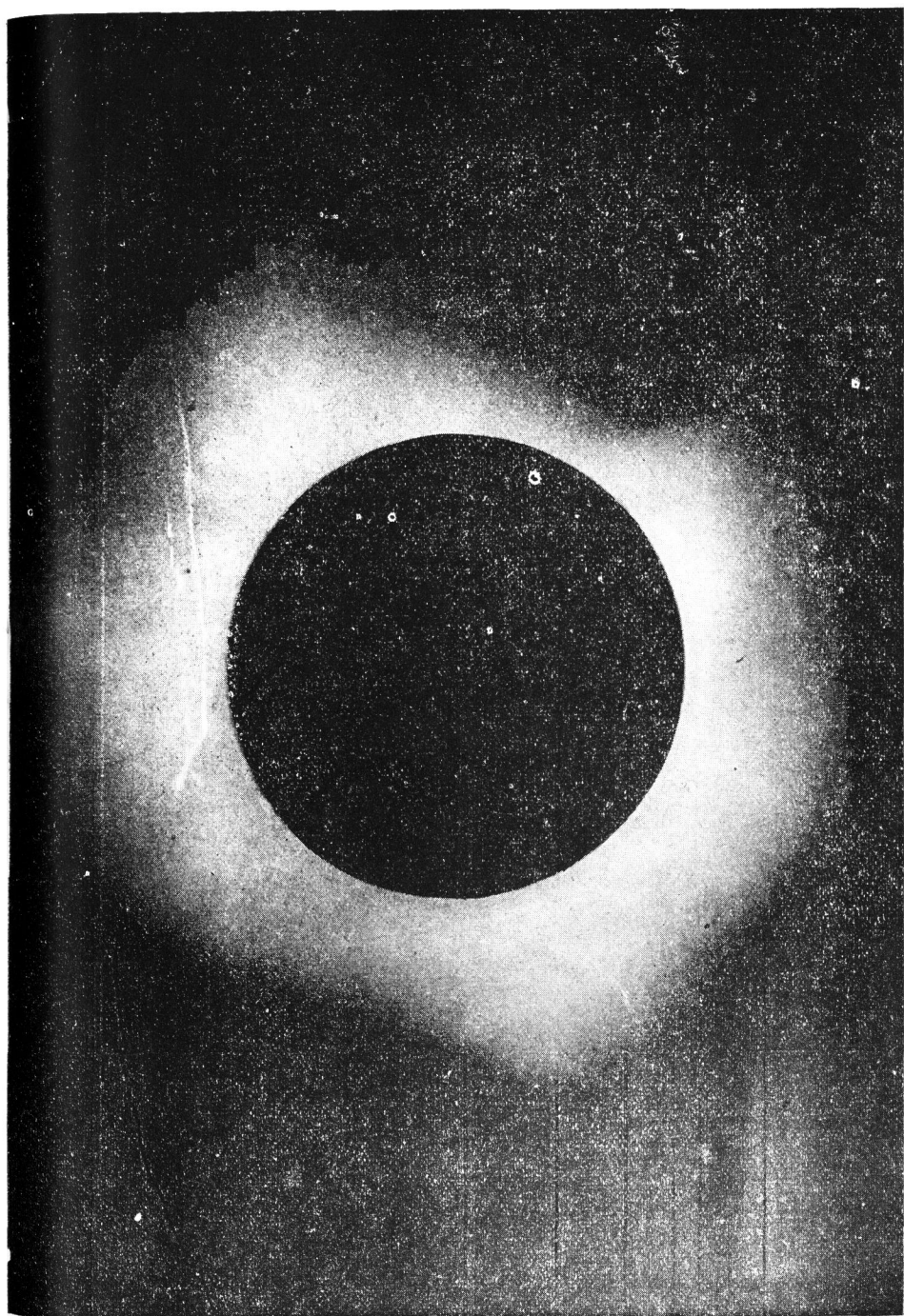
佛領ブルボンニア大島



之れは口径24センチ、
焦点距離375センチの
赤道儀望遠鏡であつ
て、右圖は之れにより、
曝寫30秒間で撮影した
コロナである。

太陽の東邊に見えて
ゐるかの見事なプロミ
ネンスを見よ。





佛國観測隊が撮影したコロナ